



乳幼児教育・保育推進事業 通信
～令和6年度 保幼小連携専門部会～



令和6年7月8日（月）に、令和6年度第1回宇治市乳幼児教育・保育推進協議会 保幼小連携専門部会を開催いたしました。
部会の様子をお知らせします。

第1回の主な内容

1. 専門部会について
2. 部会員自己紹介
3. 検討
(現状の把握・課題の抽出・課題に対する対応策の検討)
 - ・ 保育要録・指導要録の更なる活用に向けた記入内容の検討

専門部会とは

「保幼小連携」「研究・研修」「発達・子育ての支援」の推進にあたり、現状の把握、課題抽出、対応策の検討、研究・研修の企画実施について、乳幼児教育・保育の実務をよく知る職員の意見を反映できる仕組みとするために設置したもの。



○検討（現状の把握と課題の抽出・課題に対する対応策の検討）

●保育要録・指導要録の更なる活用に向けた記入内容について

<要録の性質について>

- 教育・保育内容の公的証明として大切な書類
- 本人や保護者からの開示対象書類であり、記載内容には細心の注意が必要
- 記載されている情報量（文字数）は非常に多い

<その他>

- 入学前の本人を見ていない状況で要録から子の姿を思い浮かべるのは困難
- 担任は日々の業務に追われ、要録を十分に読み込む時間はとりにくい状況
- 小学校の集団教育の場では、就学前と同様の対応が困難な場合もある
- 要録作成にあたり、小学校の先生が1番知りたいことが知りたい
- 「遊び込める子は学び込める子」だと思っている、要録では「遊び込めていた子」かどうか知りたい
- 就学前施設では、子どもがしっかり遊び込める環境を作っていきたい
- 要録の性質を踏まえると、現状の様式や記載内容に手を加えて利用することは難しく、情報伝達に関する別の方法を考えても良いのではないか
- 要録の大事な内容だけを抽出した一覧表のような、子どもの状況が一目で見て分かるような情報伝達の仕組みも良いのではないか
- 新年度が始まってからも、就学前の子どもの情報を聞ける関係性は大切
- 年度当初、就学前施設に聞き取りに行った先生から1年生の新担任が情報を引き継げる時間をしっかりと設けてもらいたい



（仮称）乳幼児教育・保育支援センターとは

施設類型を越えて全市的に連携・協働し、各施設での取組を共有することにより、これまで以上に、保幼小連携の取組推進や人材育成など、教育・保育の質の向上を図ることが可能となると考え、その仕組みづくりとして（仮称）乳幼児教育・保育支援センターを設置する。

宇治市乳幼児教育・保育推進協議会とは

すべての就学前施設が施設類型を越えたネットワークを構築すべく、乳幼児期の子どもたちの状況や課題を共有し、連携、協働して研究・研修を行うことで、教育・保育の質の向上及び人材育成を図るとともに、各施設間、家庭・地域の教育・保育力の確保・向上を支援するため、宇治市乳幼児教育・保育推進協議会を設置する。

